

令和6年度 第1回先進事例見学会の概要

PFC 長野

【開催日：令和6年10月2日（水） / 参加人数：13名】

PFC 長野株式会社は、令和3年にJA全農と株式会社ファーマインドで締結された資本提携により、国産青果物の安定販売に向け、産地貯蔵を具備する新たな生産販売事業（PFC（プラットフォームセンター）事業）として立ち上げられました。事業は令和4年6月から開始しており、温度・湿度管理が可能な高機能冷蔵庫と「コールドチェーン」を基本とした、方面別の物流手配・配送機能を具備した施設を整えています。

同社の事業は、以下の4部門の業務から構成されています。

① 物販（貯蔵販売）	長野県産を中心とした全国の農産物の仕入販売
② リパック	取引先及び産地から受託した青果物の小分け包装
③ 庫内物流	貯蔵保管（取引先から受託した物流センターや店舗配送等を含む仕分け・入出庫）
④ 熟成加工	輸入青果物を中心とする追熟加工

今般、PFC 長野株式会社様のご厚意により、会員向けに同社の取組概要のご説明及び施設見学をさせていただきましたので、その概要について以下にご報告します。

◆ PFC 長野の概要

PFC 長野株式会社（住所：長野県長野市市場3-3）は、JR長野駅から車で15分ほどの犀川に添った長野地方卸売市場内に位置し、土地面積は1,818坪、建物面積は西棟・東棟合わせて1,310坪となっております。同社は既存のファーマインド長野センターの改築により施設整備をしており、500PL収容規模の高機能冷蔵庫を保有しています。

東棟は4か所の冷蔵庫（収納規模500PL）を有しており、庫内は温度・湿度コントロールが可能となっております。西棟は温度管理された棟内に、バナナ室、ピッキング場、リパック場等を有し、入出庫口はドッグシェルターとなっており、コールドチェーン物流に対応しています。

PFC 事業としては、コールドチェーンでの物流効率化・産地貯蔵機能具備による需給調整として、

- ① 鮮度重視の「コールドチェーン」を基本とした方面別の効率的な物流手配・配送実現
- ② 品目別に最適環境下の貯蔵・保管で短期的な需給コントロールを実施し、実需者への安定供給を実現

③ 契約販売による安定的な販路確保で生産者所得の安定化追求を目指して推進されているとのことでした。

◆ 見学会実施状況

【挨拶及び概要説明】

はじめに PFC 長野株式会社センター運営部の八重樫部長から、PFC 事業及び PFC 長野の施設概要の説明がありました。

PFC 長野を活用することによる事業効果としては、下記の様なお説明を受けました。

(1) 徹底した鮮度管理（コールドチェーン）

- ・ PFC 長野の産地貯蔵機能を活用した鮮度管理により、産地から売場・店頭までのコールドチェーンを確立
- ・ 切れ間の無いコールドチェーンは鮮度維持に加えて、フードロス削減効果(産地から店頭まで)を発揮

(2) 調達リスクの低減

- ・ PFC 長野は、産地貯蔵機能を具備しており、変動する生産者からの集荷数量を平準化し出荷することで、調達リスクを低減し、従来の仕入れ・値決めと PFC 長野からの仕入れを併用することにより、数量・価格変動リスクを最小化
- ・ 値決めに関しても、長期安定価格として生産者の持続的経営にも貢献

(3) コスト低減と 2024 年問題への対応

- ・ コンテナ集荷を拡大しており、生産者の資材コストを削減
(条件によっては、粗選果による選果コスト削減も可能)
- ・ 選果場・市場・仲卸などを経由しない最短物流により、物流コストを削減
- ・ 積替輸送などによる長距離輸送問題への対応で、2024 年問題の解消にも貢献

(4) バックヤード機能の委託

- ・ バックヤード業務を PFC 長野へ集約し、労務コストを削減

続いて、PFC 長野での保管実証の結果もご説明いただき、例えば 2024 年 3～5 月に業務用キャベツを保管 (1℃/湿度 99%)、約 1 か月後に出荷したが、特段の品質クレームもなく端境期のゴールデンウィーク明けに出荷できたことで、取引先の安定供給に貢献できたとのことでした。

また、ブドウの保管に関しても、湿度の調整などを行うことで長期保管が実現する最適値を選定できたとのことでした。



【現場見学】

概要説明に続き、PFC 長野の東棟→西棟の順にご案内いただきました。

東棟内は、目が細かい水蒸気のためか、じめじめした感じはなく、建物や品物にも結露がない状態でした。4棟の冷蔵庫は中央の仮置エリアの周囲に配置されており、各冷蔵庫に外気が入らない工夫がされていました。

西棟は、まずバナナ室を見学し、差圧式でバナナを熟成する方式などの説明をいただきました。続いて、ピッキングエリア及び作業中のリパックエリアへ向かい、温度管理された施設の中での人参のパック（機械を導入）やブドウのパック作業を見学しました。

【質疑応答】

概要説明、施設見学の後は、会議室に戻って見学参加者からの質問に、PFC 長野の八重樫部長に加え JA 全農 園芸部事業開発課 田川調査役から丁寧にご回答いただきました。

2024年問題に対応した共同輸送や配送ルートに関する質問や、人材確保、衛生面に関する対応、など幅広い質問に対しても、答えられる範囲で細かく回答いただきました。

特に、コールドチェーンを途切れなくつないだ機能であり、長期保管を可能とした施設である PFC 長野に対しては、参加者一同非常に勉強になったという声が大きかったです。今後は茨城県坂東市にも新たに施設を建設予定とのことでした。

今回の見学会では、2024年問題に加え、地球温暖化による不安定な気候とそれに伴う生産量の急変への解決策を提示いただくことができました（今年度のキャベツ端境期に、長期保管したキャベツを引き当てることで需要に対応していったことなど）。

各地域でも、品質管理、物流管理、といった同様の課題が山積していることかと思えます。今回、新しい非常に高度なコールドチェーン機能を備えた施設を見学させていただきましたが、将来に向けた全国的な展開という面で非常に参考になりました。

なお、未筆ながら、今回の見学会にご協力いただきました PFC 長野株式会社様に対して、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。